

ケニア

Republic of Kenya

	2009年	2010年	2011年
①人口:3,950万人(2011年*)			
②面積:59万1,958k㎡			
③1人当たりGDP:850.6米ドル (2011年*)			
④実質GDP成長率(%)	2.7	5.8	4.4*
⑤消費者物価上昇率(%)	10.5	4.1	14.0
⑥貿易収支(100万米ドル)	△5,729	△6,785	△9,060
⑦経常収支(100万米ドル)	△1,605	△2,369	△3,333
⑧外貨準備高(100万米ドル, 期末値)	3,849	4,320	4,264
⑨対外債務残高(グロス)(100 万米ドル, 期末値)	6,684	6,925	7,858
⑩為替レート(1米ドルにつき, ケニア・シリング, 期中平均)	77.35	79.23	88.81

〔注〕*暫定値。⑥⑦⑨:ケニア・シリング建てをドル換算

〔出所〕①②④⑤⑥⑦⑨:ケニア国家統計局, ③⑧⑩:IMF

■ インフレや干ばつで経済が減速

2011年のケニアの実質GDP成長率は4.4%と、前年の5.8%から減速した。消費者物価の上昇(前年比14.0%)により実質家計所得が低下し、GDPの8割近くを占める民間最終消費支出は、前年比2.8%増にとどまった。政府最終消費支出は10.6%増、総固定資本形成は12.5%増といずれも好調で、国内最終需要の伸びは6.5%となった。他方、外需をみると、輸出の伸びが6.7%だったのに対し、輸入が15.6%と大幅に増加、外需の寄与度はマイナス4.5ポイントとなった。

産業別では、主要産業である農林業の実質成長率が干ばつの影響で前年の6.4%から1.5%に減速したほか、製造業も前年の4.5%を下回る3.3%となった。電力・水供給の分野は、降雨量が少なかったことで水不足となり、水力発電能力が低下したことで前年の9.7%からマイナス2.6%に後退した。他方、金融(前年比7.8%)、卸売り・小売り(7.3%)、ホテル・レストラン(5.0%)、運輸・通信(4.5%)などのサービス産業が好調を維持した。

■ 為替安で輸入額が拡大

ケニア国家統計局によると、2011年の輸出額(再輸出を含む)は前年比24.7%増の5,110億3,800万ケニア・シリング(以下Ksh)、輸入額は38.9%増の1兆3,156億7,100万Kshで、貿易赤字は前年比49.7%増の8,046億3,300万Kshとなった。

輸出のうち、国産品輸出は94.5%(4,829億4,400万Ksh)、再輸出は5.5%(280億9,400万Ksh)を占めた。国産品輸出を品目別にみると、紅茶が前年比11.6%増加し、3年連続で最大の輸出品目となった。天候不順により、紅茶や園芸作物、コーヒーの生産量は減少し、輸出量も減少したものの、国際的な需給の逼迫などで商品単価が上昇した影響により、それぞれの輸出額は増加した。

再輸出を含んだ輸出額を国・地域別にみると、アフリカ向けが31.1%増の2,476億100万Kshで、全体の48.5%を占めた。関税同盟を結んでいる東アフリカ共同体(EAC)加盟国(ウガンダ、タンザニア、ルワンダ、ブルンジ)向けは、35.4%増の1,371億5,600万Kshだった。EAC加盟国でもある隣国のウガンダは、ケニアの最大の

表1 ケニアの主要商品別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ケニア・シリング,%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2010年		2011年			2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
紅茶	91,617	102,235	21.2	11.6	石油製品	122,004	206,672	15.7	69.4
園芸作物	72,092	83,331	17.3	15.6	産業用機械	158,721	177,323	13.5	11.7
衣料品・アクセサリー	15,561	22,260	4.6	43.1	原油	72,598	124,042	9.4	70.9
コーヒー	16,244	19,296	4.0	18.8	自動車	55,812	64,669	4.9	15.9
たばこ・同製造品	10,562	18,633	3.9	76.4	鉄鋼	43,558	63,338	4.8	45.4
鉄鋼	12,124	18,161	3.8	49.8	動植物油脂類	38,956	59,133	4.5	51.8
動植物油脂類	9,893	14,165	2.9	43.2	プラスチック原料・同製品	35,995	49,357	3.8	37.1
エッセンシャルオイル	9,625	13,821	2.9	43.6	医薬品	27,879	39,681	3.0	42.3
ソーダ灰	7,265	12,371	2.6	70.3	非製粉小麦	17,451	31,371	2.4	79.8
プラスチック製品	6,895	9,350	1.9	35.6	紙・板紙	17,748	23,184	1.8	30.6
合計(その他含む)	385,441	482,944	100.0	25.3	合計(その他含む)	947,206	1,315,671	100.0	38.9

〔注〕輸出には「再輸出」は含まない。2011年は暫定値。

〔出所〕表2とも、ケニア国家統計局「エコノミック・サーベイ2012」。

表2 ケニアの主要国別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ケニア・シリング、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2010年		2011年			2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
ウガンダ	52,108	75,954	14.9	45.8	アラブ首長国連邦	116,045	199,390	15.2	71.8
英国	40,211	46,728	9.1	16.2	インド	103,242	148,772	11.3	44.1
タンザニア	33,211	41,743	8.2	25.7	中国	120,648	144,050	10.9	19.4
オランダ	26,868	32,790	6.4	22.0	南アフリカ共和国	59,781	71,281	5.4	19.2
米国	22,522	25,710	5.0	14.2	日本	58,244	58,684	4.5	0.8
エジプト	18,116	23,422	4.6	29.3	サウジアラビア	32,274	53,713	4.1	66.4
スーダン	18,815	22,154	4.3	17.7	インドネシア	26,955	45,350	3.4	68.2
パキスタン	18,069	21,010	4.1	16.3	米国	39,316	44,566	3.4	13.4
アラブ首長国連邦	18,856	19,918	3.9	5.6	英国	37,869	43,208	3.3	14.1
コンゴ(旧ザイール)	12,792	17,537	3.4	37.1	ドイツ	26,367	31,981	2.4	21.3
合計(その他含む)	409,794	511,038	100.0	24.7	合計(その他含む)	947,206	1,315,671	100.0	38.9

[注1] 再輸出を含む。2011年は暫定値。

[注2] スーダンは、スーダンおよび南スーダン共和国の合計。

輸出相手国で、鉄または非合金鋼のフラットロール製品などが伸び、前年比45.8%増加した。

輸入では、燃料価格の上昇とケニア・シリングの為替安が影響し、石油製品と原油の輸入額が大きく増加、石油製品は最大、原油は3番目に大きい輸入品目となった。また、干ばつの影響で小麦の国内生産が不調だったため、非製粉小麦が増加し、前年比79.8%増となった。

国別では、主に原油と石油製品の調達元であるアラブ首長国連邦(UAE)からの輸入額が前年比71.8%増と大幅に増加し、最大の輸入相手国となった。インドは石油製品と医薬品の増加により44.1%増となり、UAEに次ぐ輸入相手国となった。3位は19.4%増の中国(前年1位)で、主要品目は重機や電子機器、自動車、織物製品、家庭用品だった。

■ 高まる中国企業の存在感

ケニア国家統計局によると、2011年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は297億7,400万Ksh(前年比2.1倍)となった。ケニア投資庁のデータ(報道ベース)によると、2011年の国内企業による新規投資は590億Ksh(前年比48.7%減)、外国企業による新規投資は709億Ksh(6.1%増)だった。

自動車部門では、ゼネラルモーターズ・イーストアフリカ(GMEA)、トヨタ・アフリカ(AVA)、ケニア・ビークル・マニュファクチャラーズなどが既に進出しているが、中国やインド勢による新たな動きが目立った。2011年8月に奇瑞汽車(チェリー)が2013年までに生産を開始する計画(投資額5,000万ドル)を発表。2012年4月には北汽福田汽車(フォトン)がナイロビにトラックの組立工場を設立(5,000万ドル)した。このほか、第一汽車(FAW)がモンバサ、タタ・アフリカがナイロビで、いずれも主にトラックの組立工場の建設(投資額は、それぞれ2,000万ドル)を進める。韓国企業では、現代自動車が2011年7月、今後3

年間でケニアを含む東アフリカに2,200万ドル投資し、販売網の拡大や純正品販売に取り組む計画を表明した。EACでは、2010年に域内関税が撤廃されたこともあり、周辺国への事業展開も見据えた投資は今後加速すると見込まれる。建設部門では、中国武夷实业股份有限公司(China Wu Yi)、中国路桥工程有限责任公司(CRBC)、中国水利水電建設集団(Sinohydro)などが道路や空港の建設を手掛けている。また、英国のタロー・オイルが北西部トゥルカナ地域で油田を発見したため、今後、石油関連会社による探査活動の活発化が見込まれる。

■ 日系企業の活動も徐々に活発化

日本の貿易統計をドル換算すると、2011年の日本の対ケニア貿易は、輸出額が前年比1.0%増の6億2,340万ドル、輸入額が12.2%増の4,514万ドルとなった。

日本からの輸出では、東日本大震災の影響で乗用車や貨物自動車などが減少した一方、鉄鋼を中心とした金属品の輸出が大きく増加した。ケニアからの輸入では、最大品目の生鮮切花が前年比21.9%増となった。中でもバラは、日本にとってケニアが最大の輸入相手先で、金額ベースで日本の対世界輸入の35.7%を占めた(数量ベースでは韓国が1位)。

日系企業の動向としては、本田技研工業(2011年12月)、三井物産(2011年12月)、旅行会社のエイチ・アイ・エス(H.I.S)(2012年4月)が進出するなど、在ケニアの日系企業数は増加傾向にある。プロジェクトでは、2011年7月に東洋建設がモンバサ港のコンテナターミナルの建設、2011年11月に豊田通商が韓国の現代エンジニアリングと共同でオルカリア地熱発電所の建設を受注した。2012年6月には、株式会社ジェーシービー・インターナショナルが、ケニアのエクイティ銀行と、東アフリカの5カ国における加盟店・ATMでのJCBカードの取り扱いに関し、ライセンス契約を締結した。

表3 日本の対ケニア主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル, %)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2010年		2011年			2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
工業製品	574,222	589,286	94.5	2.6	食料品・動植物生産品	25,009	27,589	61.1	10.3
化学品	24,618	18,135	2.9	△ 26.3	コーヒー, 茶, 香辛料	12,733	16,174	35.8	27.0
機械・機器	465,077	441,025	70.7	△ 5.2	コーヒー豆	6,799	8,109	18.0	19.3
一般機械	35,652	32,726	5.2	△ 8.2	紅茶	5,345	7,353	16.3	37.6
輸送機械	423,931	402,315	64.5	△ 5.1	加工食品類	10,771	9,606	21.3	△ 10.8
乗用車	237,144	218,183	35.0	△ 8.0	茶濃縮物	8,969	9,036	20.0	0.7
貨物自動車	142,617	131,009	21.0	△ 8.1	原料品	13,772	15,282	33.9	11.0
二輪車(バイク)	6,895	5,986	1.0	△ 13.2	切花(生鮮)	10,016	12,210	27.1	21.9
金属品	77,719	120,400	19.3	54.9	切花(加工)	587	514	1.1	△ 12.4
鉄鋼	69,879	112,799	18.1	61.4	工業製品	1,128	2,164	4.8	91.8
合計(その他含む)	617,424	623,398	100.0	1.0	合計(その他含む)	40,230	45,135	100.0	12.2

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」をドル換算。